



平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年11月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ヤマノホールディングス

コード番号 7571 URL <http://www.yamano-hd.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼最高執行責任者 (氏名) 山野 義友

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員管理副本部長兼財務経理部長 (氏名) 岡田 充弘

TEL 03-3376-7878

四半期報告書提出予定日 平成27年11月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (平成27年11月20日開催予定 機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第2四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	10,418	△3.4	△117	—	△121	—	△103	—
27年3月期第2四半期	10,785	△6.8	△133	—	△151	—	△144	—

(注) 包括利益 28年3月期第2四半期 △132百万円 (—%) 27年3月期第2四半期 △183百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
28年3月期第2四半期	△3.01	—
27年3月期第2四半期	△4.20	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第2四半期	10,771	2,262	9.0
27年3月期	11,288	2,610	11.0

(参考) 自己資本 28年3月期第2四半期 971百万円 27年3月期 1,241百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
27年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	24,000	3.6	230	98.3	200	141.0	130	△27.0	3.77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
 新規 1社 (社名) 株式会社吉利、除外 1社 (社名)
 (注)詳細は、5ページの2. サマリー情報(注記事項)に関する事項「(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期2Q	34,497,058 株	27年3月期	34,497,058 株
② 期末自己株式数	28年3月期2Q	15,966 株	27年3月期	15,966 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期2Q	34,481,092 株	27年3月期2Q	34,481,092 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく連結財務諸表及び財務諸表の監査手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
 ・決算説明会の資料及び内容は、決算説明会終了後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績

当第2四半期連結累計期間における国内経済は、政府の経済政策や日銀の金融政策を背景に企業収益や雇用・所得環境の改善が見られ、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方で、円安の進行による物価上昇や海外景気の下振れリスク等により、先行きにつきましては依然として不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、グループの共通戦略として掲げている「ソフトと価値の提供」に基づき、各事業における収益力の向上に引き続き取り組むとともに、グループ全体の成長戦略としてM&Aを本格的に推進し、当四半期は卸売事業で新規子会社1社（株式会社吉利）が増加、また和装宝飾事業においても1社（株式会社すずのき）の子会社化を決定いたしました。

当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高につきましては、卸売事業において新規子会社を設立し、和装小物卸売事業の事業譲受を実施したことによる売上高の増加がありましたが、既存事業での店舗数減やアパレル事業の事業譲渡等の影響により、104億18百万円（前年同四半期比3.4%減）となりました。一方収益面では、事業の集中と選択を推進する中で管理コストの削減を図るとともに、経営資源の配分見直しを行い、営業コストの圧縮にも努めた結果、営業損失は1億17百万円（前年同四半期は営業損失1億33百万円）、経常損失は1億21百万円（前年同四半期は経常損失1億51百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失1億3百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失1億44百万円）と改善いたしました。

セグメントの業績は、以下のとおりであります。

1) 「美容事業」

美容事業につきましては、当第2四半期連結累計期間においては「アンチエイジングサロン」への店舗リニューアルを3店舗実施するほか、ブランド統一による採用・販促効果の向上を図るため、店舗名を68店舗で「My jStyle by Yamano」へ、12店舗で「PLAZA HAIR by Yamano」へ統合し、「Yamano」ブランドの屋号導入を実施いたしました。

なお、平成27年9月30日現在の店舗数は、直営103店舗、FCは5店舗となっております。

美容事業では、他社との差別化サービスメニューとして着付けサービス強化を推進しており、浴衣着付けサービスの売上高は前年同期比139.3%となりました。浴衣着付けサービスは、着付けサービスを重点施策として強化を開始して以来、3期連続して前年売上を大きく上回る伸長をみせております。しかしながら、競合店が飽和状態であり、かつ店舗数は増加する一方である厳しい事業環境の下での集客数維持は難しく、リニューアルを実施した3店舗での集客数は前年同期比106.9%と伸びたものの全店では集客数減となり、その結果、売上高は11億81百万円（前年同四半期比4.2%減）となり、セグメント利益11百万円（前年同四半期比68.1%減）となりました。

2) 「スポーツ事業」

スポーツ事業につきましては専門店ならではの提案力強化の施策としてメンテナンスサービスの商品化、体験イベントサービスの開催等を推進しております。当四半期でデベロッパ都合による店舗閉鎖が1店舗あり、平成27年9月30日現在の店舗数は16店舗となっております。

スポーツ事業での売上高は、アウトドア関連商品売上は前年同期比108.2%、テニス関連商品売上は前年同期比110.4%と好調であったものの、ウェア全般及びダイビング商品の売上が不振となり、また店舗数減があったため、15億9百万円（前年同四半期比1.9%減）となりました。セグメント損失は、利益率の高いウェア販売の不振による粗利率低下のほか、新卒採用による人件費等の増加があったため、1億45百万円（前年同四半期はセグメント損失1億32百万円）となりました。

3) 「DSM事業」

DSM事業につきましては、お買い物以外の顧客ニーズに応える催事を継続的に開催する一方で、各ショップにて洋装品を中心にしたミニ展示会を開催し、商品提案の場を広げる施策を行っております。当四半期では事業所2拠点の閉鎖があり、平成27年9月30日現在の店舗数は78店舗となっております。

DSM事業では事業所数・販売員の減少に伴う売上高減少への対策として、販売員紹介キャンペーンを実施するとともに、事業所統合による固定費の削減や販促費用の見直し等に努めていますが、売上高は12億95百万円（前年同四半期比10.5%減）となり、セグメント利益は24百万円（前年同四半期比27.8%減）となりました。

4) 「和装宝飾事業」

当第2四半期連結累計期間において、事業の選択と集中による経営資源の集中を目的として、アパレル事業を平成27年6月1日付で事業譲渡いたしました。また当四半期で宝飾小売店舗1店舗の閉鎖を実施したことにより、平成27年9月30日現在の店舗数は、和装小売店舗が64店舗、宝飾小売店舗が20店舗となっております。

和装宝飾事業の売上高は、アパレル事業譲渡や宝飾小売事業の店舗閉鎖による売上高減少があり、売上高は31億97百万円（前年同四半期比3.9%減）となりましたが、和装小売事業においては、従来からの事業戦略である①前楽結び着方教室、②着る機会の提供、③お手入れサービスの3施策の推進及び人材育成への取り組み強化に努めるほか、移転リニューアルを3店舗で実施したことにより売上高が前年を上回って推移しており、また、アパレル事業の譲渡に伴う経営資源の配分の見直しによって収益力が向上し、セグメント利益は69百万円（前年同四半期比63.9%増）の増益となりました。

5) 「卸売事業」

卸売事業につきましては、当第2四半期連結会計期間において、子会社1社（株式会社吉利）を設立し、和装小物卸売事業の譲受を実施いたしました。なお、平成27年9月30日現在のタケオニシダ直営店の店舗数は17店舗となっております。

当第2四半期連結累計期間における卸売事業の売上高は、子会社の増加による売上高増加はありましたが、地方百貨店の閉鎖や企画催事販売の低迷等が影響し、28億76百万円（前年同四半期比2.5%減）となり、セグメント損失は82百万円（前年同四半期はセグメント損失88百万円）となりました。

6) 「その他の事業」

その他の事業の事業内容は、主に堀田（上海）貿易有限公司の意匠燃糸の販売、株式会社ヤマノセイビングの前払式特定取引業による手数料収益であります。

その他の事業の売上高は、3億58百万円（前年同四半期比165%増）となり、セグメント損失0百万円（前年同四半期はセグメント損失2百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

第1四半期連結会計期間より「企業結合に関する会計基準」等を適用しており、当第2四半期連結累計期間の総資産及び純資産は当該会計方針の変更に伴う遡及処理の内容を反映させた数値で前四半期連結累計期間との比較を行っております。

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ5億16百万円減少し107億71百万円となりました。これは、主に流動資産においては現金及び預金が4億55百万円減少、受取手形及び売掛金が68百万円減少し、商品及び製品が1億65百万円増加、会計方針の変更によるのれん1億5百万円の減少によるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末と比べ1億68百万円減少し85億9百万円となりました。これは、主に短期借入金2億13百万円増加、電子記録債務が1億22百万円減少、長期未払金が59百万円減少、長期借入金80百万円減少したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比べ3億48百万円減少し22億62百万円となりました。これは、主に剰余金の配当68百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失1億3百万円、会計方針の変更による利益剰余金1億4百万円の減少によるものです。

第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、税金等調整前四半期純損失が1億17百万円となり、前年同四半期連結会計期間末に比べ2億14百万円増加し10億64百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果支出した資金は、2億66百万円（前年同四半期は115百万円の支出）となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純損失1億17百万円に対し、売上債権の減少額2億79百万円、棚卸資産の増加1億68百万円、仕入債務の減少1億9百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は、1億85百万円（前年同四半期は18百万円の収入）となりました。

これは主に、事業譲受による支出2億円、有形固定資産の取得による支出60百万円、敷金及び保証金の回収による収入51百万円、によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果支出した資金は、4百万円（前年同四半期は48百万円の支出）となりました。

これは主に、短期借入金の増加2億13百万円、長期借入金の返済による支出81百万円、配当金の支払額67百万円、非支配株主への配当金の支払額40百万円によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年3月期の通期業績予想につきましては、第2四半期累計期間の業績及び今後の見通しを踏まえ、売上高240億円、営業利益2億30百万円、経常利益2億円、当期純利益1億30百万円を計画いたします。

詳細については、本日付で公表いたしました「第2四半期業績予想と実績値との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	22,800	380	350	230	6.67
今回予想(B)	24,000	230	200	130	3.77
増減額(B-A)	1,200	△150	△150	△100	—
増減率(%)	5.3	△39.5	△42.9	△43.5	—
(ご参考)前期実績	23,168	116	83	178	5.17

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第2四半期連結会計期間より、当社連結子会社である堀田丸正株式会社が新たに設立した株式会社吉利(商号を株式会社吉利事業譲受準備会社から変更)を連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(3)、連結会計基準第44-5項(3)及び事業分離等会計基準第57-4項(3)に定める経過的な取扱いに従っており、過去の期間のすべてに新たな会計方針を遡及適用した場合の第1四半期連結会計期間の期首時点の累積的影響額を資本剰余金及び利益剰余金に加減しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首において、のれん105,850千円及び資本剰余金1,259千円が減少するとともに、利益剰余金が104,590千円減少しております。また、当第2四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失はそれぞれ21,900千円減少しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,008,821	1,552,994
受取手形及び売掛金	2,450,795	2,381,855
電子記録債権	74,041	85,179
商品及び製品	3,015,518	3,181,002
仕掛品	23,035	20,605
原材料及び貯蔵品	53,366	72,536
繰延税金資産	39,970	39,970
その他	326,205	325,510
貸倒引当金	△41,608	△55,607
流動資産合計	7,950,147	7,604,047
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,690,806	1,668,971
減価償却累計額	△1,172,915	△1,146,970
建物及び構築物(純額)	517,890	522,000
機械装置及び運搬具	14,253	13,873
減価償却累計額	△13,748	△13,409
機械装置及び運搬具(純額)	504	463
工具、器具及び備品	442,149	447,462
減価償却累計額	△398,764	△393,746
工具、器具及び備品(純額)	43,385	53,716
土地	727,521	727,521
リース資産	64,472	72,221
減価償却累計額	△27,026	△34,210
リース資産(純額)	37,445	38,011
有形固定資産合計	1,326,748	1,341,713
無形固定資産		
のれん	137,837	26,653
その他	136,375	119,821
無形固定資産合計	274,212	146,475
投資その他の資産		
投資有価証券	165,876	181,697
長期貸付金	10,842	12,244
繰延税金資産	95,162	94,769
敷金及び保証金	1,234,276	1,159,628
その他	393,629	312,663
貸倒引当金	△162,834	△81,521
投資その他の資産合計	1,736,953	1,679,481
固定資産合計	3,337,914	3,167,670
資産合計	11,288,062	10,771,717

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,389,382	2,404,747
電子記録債務	558,944	436,167
短期借入金	290,000	503,500
1年内返済予定の長期借入金	312,680	311,560
未払金	536,730	557,051
前受金	1,222,832	1,240,559
未払法人税等	54,888	34,651
賞与引当金	10,000	3,930
返品調整引当金	13,495	40,465
ポイント引当金	52,793	50,052
株主優待引当金	4,041	4,041
資産除去債務	10,722	1,292
その他	532,788	381,729
流動負債合計	5,989,299	5,969,748
固定負債		
長期借入金	2,071,300	1,990,520
長期末払金	223,257	164,085
繰延税金負債	29,175	34,377
資産除去債務	235,392	232,732
その他	128,955	117,787
固定負債合計	2,688,079	2,539,502
負債合計	8,677,379	8,509,251
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	1,259	-
利益剰余金	1,111,229	834,019
自己株式	△3,019	△3,019
株主資本合計	1,209,470	931,000
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18,754	25,622
為替換算調整勘定	13,751	14,790
その他の包括利益累計額合計	32,506	40,413
非支配株主持分	1,368,705	1,291,052
純資産合計	2,610,682	2,262,466
負債純資産合計	11,288,062	10,771,717

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	10,785,246	10,418,321
売上原価	6,300,829	6,107,929
売上総利益	4,484,417	4,310,392
販売費及び一般管理費	4,617,479	4,427,427
営業損失(△)	△133,062	△117,035
営業外収益		
受取利息	3,494	3,578
受取地代家賃	7,099	6,347
協賛金収入	5,954	5,589
負ののれん償却額	338	-
その他	13,038	18,978
営業外収益合計	29,924	34,493
営業外費用		
支払利息	22,120	22,667
手形売却損	1,107	1,014
その他	25,622	15,603
営業外費用合計	48,849	39,285
経常損失(△)	△151,987	△121,827
特別利益		
固定資産売却益	4,367	-
投資有価証券売却益	-	2,207
事業譲渡益	-	7,890
負ののれん発生益	20,136	-
特別利益合計	24,503	10,098
特別損失		
固定資産除却損	1,938	1,547
減損損失	2,832	967
店舗閉鎖損失	4,693	3,667
その他	14,145	-
特別損失合計	23,610	6,182
税金等調整前四半期純損失(△)	△151,094	△117,911
法人税、住民税及び事業税	32,681	28,300
法人税等調整額	△1,533	△74
法人税等合計	31,147	28,226
四半期純損失(△)	△182,241	△146,137
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△37,468	△42,465
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△144,773	△103,672

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純損失(△)	△182,241	△146,137
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,768	11,762
為替換算調整勘定	△4,158	1,857
その他の包括利益合計	△1,389	13,620
四半期包括利益	△183,630	△132,517
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△144,646	△95,766
非支配株主に係る四半期包括利益	△38,984	△36,751

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△151,094	△117,911
減価償却費	64,496	69,219
減損損失	2,832	967
のれん償却額	30,002	5,334
負ののれん償却額	△338	-
負ののれん発生益	△20,136	-
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△1,384	△3,029
賞与引当金の増減額(△は減少)	△11,160	△6,070
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△4,934	△2,741
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△43,667	△67,312
受取利息及び受取配当金	△3,494	△3,578
支払利息	22,120	22,667
手形売却損	1,107	1,014
有形固定資産除却損	1,938	1,547
有形固定資産売却損益(△は益)	△4,367	-
事業譲渡損益(△は益)	-	△5,039
売上債権の増減額(△は増加)	341,419	279,499
たな卸資産の増減額(△は増加)	△277,152	△168,892
仕入債務の増減額(△は減少)	73,895	△109,701
前受金の増減額(△は減少)	△8,371	17,727
その他	△63,523	△118,097
小計	△51,811	△204,397
利息及び配当金の受取額	3,494	2,129
利息の支払額	△7,498	△9,292
手形売却に伴う支払額	△1,107	△1,014
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△58,859	△53,761
営業活動によるキャッシュ・フロー	△115,782	△266,336
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△34,502	△60,408
有形固定資産の売却による収入	18,600	-
無形固定資産の取得による支出	△3,630	△1,050
投資有価証券の取得による支出	△733	△741
投資有価証券の売却による収入	-	4,560
事業譲渡による収入	-	38,870
事業譲受による支出	-	△200,010
貸付けによる支出	△1,195	△2,726
貸付金の回収による収入	2,793	2,401
敷金及び保証金の差入による支出	△14,235	△10,245
差入保証金の回収による収入	51,586	51,553
担保預金の増減額(△は増加)	4,008	-
その他	△3,810	△7,393
投資活動によるキャッシュ・フロー	18,881	△185,189

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	116,000	213,500
長期借入金の返済による支出	△53,460	△81,900
配当金の支払額	△50,369	△67,879
非支配株主への配当金の支払額	△40,544	△40,539
子会社の自己株式の取得による支出	△138	△344
その他	△19,772	△27,317
財務活動によるキャッシュ・フロー	△48,283	△4,480
現金及び現金同等物に係る換算差額	△547	179
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△145,731	△455,827
現金及び現金同等物の期首残高	995,891	1,520,071
現金及び現金同等物の四半期末残高	850,159	1,064,244

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当の支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月15日 取締役会	普通株式	51,721	1.50	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 配当の支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月15日 取締役会	普通株式	68,962	2.00	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	美容	スポーツ	DSM	和装宝飾	卸売
売上高					
外部顧客への売上高	1,233,535	1,539,545	1,446,773	3,325,847	2,950,529
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	19	—	40,992
計	1,233,535	1,539,545	1,446,792	3,325,847	2,991,521
セグメント利益又は損失(△)	35,713	△132,038	33,690	42,600	△88,865

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	計				
売上高					
外部顧客への売上高	10,496,231	289,014	10,785,246	—	10,785,246
セグメント間の内部売上高 又は振替高	41,011	24,038	65,050	△65,050	—
計	10,537,243	313,053	10,850,296	△65,050	10,785,246
セグメント利益又は損失(△)	△108,899	△2,849	△111,749	△21,312	△133,062

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントである金融事業及びその他事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△21,312千円には、セグメント間取引消去4,477千円、のれん償却額△24,668千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,654千円及び棚卸資産の調整額1,532千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:千円)

	美容	スポーツ	DSM	和装宝飾	卸売	その他	全社・消去	合計
減損損失	—	—	—	2,832	—	—	—	2,832

(重要な負ののれん発生益)

当第2四半期連結累計期間において、当社の連結子会社である堀田丸正株式会社より、HMリテーニングス株式会社の株式を取得し、当社の100%子会社としたことに伴い、「和装宝飾」セグメントにおいて負ののれん発生益を20,136千円計上しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	美容	スポーツ	D S M	和装宝飾	卸売
売上高					
外部顧客への売上高	1,181,238	1,509,806	1,295,073	3,197,261	2,876,409
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	41,352
計	1,181,238	1,509,806	1,295,073	3,197,261	2,917,761
セグメント利益又は損失(△)	11,406	△145,754	24,339	69,829	△82,116

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	計				
売上高					
外部顧客への売上高	10,059,789	358,531	10,418,321	—	10,418,321
セグメント間の内部売上高 又は振替高	41,352	22,389	63,741	△63,741	—
計	10,101,141	380,920	10,482,062	△63,741	10,418,321
セグメント利益又は損失(△)	△122,296	△944	△123,240	6,204	△117,035

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない事業セグメントである金融事業及びその他事業等を含んでおりません。

2 セグメント利益の調整額6,204千円には、セグメント間取引消去4,477千円、各報告セグメントに配分していない全社費用4,429千円及び棚卸資産の調整額△2,702千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

	美容	スポーツ	D S M	和装宝飾	卸売	その他	全社・消去	合計
減損損失	—	—	—	967	—	—	—	967

(のれんの金額の重要な変動)

企業結合会計基準等の適用により、企業結合会計基準第58-2項(3)、連結会計基準第44-5項(3)及び事業分離等会計基準第57-4項(3)に定める経過的な取扱いに従っており、過去の期間のすべてに新たな会計方針を遡及適用した場合の第1四半期連結会計期間の期首時点の累積的影響額を資本剰余金及び利益剰余金に加減しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首において、のれんが105,850千円減少しております。